

大会宣言

私たちは第70回定期大会において、昨年度の運動を総括し、2012年度の運動方針を確立しました。

多くの国民の期待を集めて発足した民主党政権は国民の期待を裏切り続け、政権公約を果たさないばかりか悪政を進めようとしています。首相が政治生命を賭けるとしている消費税増税には6割近くの国民が反対しています。国民への13兆円の負担による国内消費減、税の逆進性、中小企業の負担増への十分な対応はなく、さらに現時点での増税は震災復興の大きな足かせになります。公務分野では、高校授業料無償化改悪の動き、「定年延長」から「再任用の義務化」への変更、賃金の抑制や退職手当400万円削減などの不当な公務員攻撃を推し進め、現場で奮闘する公務員や長時間過密労働に苦しむ教職員にさらなる負担を強いようとしています。

今大会では「分会で集まる機会ををつくって声かけをしている」「てるゼミ経験者の誘いで、てるゼミから加入へと進んだ」との発言など、先輩教員の思いと若い教員の思いが双方向でゆきかう様子が生き生きと伝わりました。職場で集まることの重要性、動きの見える分会活動が新しい仲間を迎える力になることが再認識されました。

また、「勤務の割り振りで前進があった」「衛生委員会が機能し始めている」「みんなで支えあい、助け合おうという分会になった」などそれぞれの分会のとりくみの姿が参加者に元気を与え、岡山高教組のとりくみが成果をあげていることも確認されました。

一方、様々な問題も語られました。「講師の方が多く、教諭が少ない。とにかく人がいなくて基本的な業務がまわらない」などコスト最優先の県教委や市教委の姿勢が現場に負担を強いている実態や「新学校管理システムが動かず、現場の教職員や担当者に大きな負担になっている」「業者に改善を依頼しているが半年たっても変わらない」などの問題点があげられています。11確定での県教委回答を実行させ使えるシステムへ改善させていくことが必要です。

修学援助会からは生徒をとりまく厳しい家計の状況が報告され、給付制奨学金の創設、「授業料無償化」から「教育費無償化」への流れを大きくしてゆく必要性を感じさせる発言や教職員評価システムでは「形ばかりの校長面談で意味がない」「簡素化されたという目標シートがかえって負担をまねいている」という発言もあり、簡素化や育成につながっていない実態が浮き彫りになりました。

今、政府は消費税増税の露払いとして、理不尽な公務員攻撃をさらに推し進めようとしています。また、差別賃金の導入や多忙化で「差別・分断」を職場に持ち込み、ますます物言わぬ教員をつくろうとしています。安心して子育てや人生設計ができ、定年まで働き続け、教育に邁進できる職場環境をつくるためには、多くの仲間を迎え、私達の声を広く県民や父母に届け、県教委を動かす大きな力が必要です。

岡山高教組は、本大会において確認したスローガンを高く掲げ、「支えあい、助け合い、高めあう」組織として奮闘することを宣言します。

2012年6月10日

岡山県高等学校教職員組合第70回定期大会